

日本語・韓国語教育における漢語動詞の研究

高木 南欧子／尹 亭仁

漢字は、字形、読み、意味の3つを備えており、言語運用の観点から見ると、情報の伝達において効率が良い。文章中に馴染みのない漢語が出てきたとしても、意味の類推が可能である。日本語・韓国語の教育においても同様のことが言える。日本語と韓国語には、同じ漢語由来の語彙が多く存在するため、読みを手がかりとして字形にたどり着き、意味を類推することが可能である。しかしながら、それぞれの用法の違いから、誤用が起ることも指摘されている。

本研究グループは、言語教育の立場からこの問題について考察を行い、それぞれの言語現場に結果を還元することを目的としている。

今年度は、初級、中級の教材を広く収集し、漢語動詞の抽出を行った。現在は、それぞれの提出順序、例文、指導書の記述の有無等を含めたデータの整理を行っている。今後は、誤用が起きる可能性を検討するとともに、実際に誤用が出るかの検証を行い、さらに分析をすすめていく予定である。
